

令和5年度 第1回海陽町学校のあり方検討委員会  
議事録

日時：令和5年8月31日（木） 10:00～

場所：阿波海南文化村 大会議室

出席者：委員16名中9名出席

事務局：（担当課）海陽町教育委員会 三浦教育長、森崎教育次長、浦川課長補佐  
（受託者）リージョナルデザイン株式会社 安孫子

- ・設置要綱の説明
- ・委嘱状の交付
- ・教育長挨拶
- ・委員紹介
- ・事務局紹介

■委員長・副委員選任

（事務局）

前任の委員長から退任の申し出があり、委員長及び副委員長を選任します。設置要綱により、委員の皆さんの中から選任することになります。どなたかご推薦などありませんか。

（辻委員）

事務局案でお願いします。

（全委員）

異議なし

（事務局）

それでは、事務局案として、委員長に皆津委員、副委員長に吉成委員にお願いします。お引き受けいただきますでしょうか。ありがとうございます。これより、議事の進行は委員長が行う事になります。この後、委員長席へ移動していただき、議事進行をお願いいたします。

（皆津委員長）

海陽町のより良い学校のあり方検討について、ご協力お願いします。

（事務局）

議事に入る前に、会議の情報公開について説明します。議事に入る前に、会議の情報公開について説明いたします。設置要綱第6条第5項の規定により、会議は公開を原則とします。設置要綱第7条第1項の規定により、会議は委員長の許可を得て傍聴することができます。議事録の作成について委員の皆様のご意見を伺いたと思います。設置要綱第6条第6項の規定により、会議の議事録は、委員会の承認を得て公開するものとなります。

## ■議題 1

(皆津委員長)

議事を進めます。事務局から資料の説明があってから、委員の皆様の意見を聞きます。議題1について事務局の方から説明をお願いします。

(事務局)

資料1「計画策定スケジュール」をご覧ください。学校再編基本計画策定は、委員会において審議し、パブリックコメントを経て学校再編基本計画を定めます。令和5年度の委員会は本日の第1回委員会、10月中旬に第2回、令和6年1月に第3回を開催し、パブリックコメントを実施し、その結果を踏まえて、3月上旬に第4回委員会で計画策定となります。以上です。

(皆津委員長)

質問等がありますか。ないようですので、議題2の「これまでの経緯（令和4年度委員会答申）」について、事務局から説明してください。

## ■議題 2

(事務局)

それでは続きまして、議題2のこれまでの経過ということで、令和4年度の委員会の方針について事務局から説明をさせていただきます。資料2「海陽町学校のあり方基本方針」をご覧ください。令和4年度の委員会で学校再編の基本方針となる「海陽町学校のあり方基本方針」を審議し、教育長へ答申を行いました。「海陽町学校のあり方基本方針」は、学校と地域が少子化の影響を受けるなか、学校の持つスケールメリットの考えを基本とし、小・中学校の適正規模を検討した結果、海陽町の教育の特徴や特性を4つの視点でまとめ、再編の方針として、小学校2校、中学校2校の二校体制に移行し、その後に小学校1校、中学校1校体制に移行する事も考慮する方針を示しました。以上です。

(皆津委員長)

このことについて何かありますか。ないようですので、議題3の「学校再編基本計画（計画骨子案）」について、事務局から説明してください。

## ■議題 3

(事務局)

それでは資料3でございます。・資料3「学校再編基本計画（計画骨子案）」をご覧ください。1ページをご覧ください。本計画は、少子化による児童生徒数の減少に寄り教育環境へ影響を与え、学校規模と配置について、文部科学省では、地域の実情に応じた最適な学校教育のあり方や学校規模について、各自治体における主体的な検討を促進する趣旨の下、平成27年1月に「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」を策定し、小規模校・大規模校のそれぞれの特性や

課題、学校規模の適正化の必要性を掲げています。これを受け、本町では令和4年に小・中学校の教職員、保護者を対象にした「海陽町学校のあり方に関するアンケート調査」を実施し、「海陽町学校のあり方検討委員会」を設置、本町における今後の学校のあり方について様々な視点から議論を重ねていただき、令和5年3月に答申をまとめたことが計画策定の経緯となります。本計画の期間は、社会情勢の変化や少子化の動向を鑑みて10年とします。2ページをご覧ください。将来人口の推移は、総人口は、2015年の9,283人から、2045年には59.0%減の3,810人まで減少する見込みです。特に年少人口にいたっては、2015年の818人から、2045年には76.2%減の195人まで減少する見込みとなっています。なお、国立社会保障・人口問題研究所推計は今年度内に令和2年の国勢調査結果による将来人口推計が公開される予定です）3ページをご覧ください。小学校児童数は、令和15年度には163人程度になると見込まれ、令和5年度と比較すると84人、34.0%減少することになります。中学校生徒数は、令和15年度には119人程度になると見込まれ、令和5年度と比較すると21人、15.0%減少することになります。4ページをご覧ください。小・中学校の立地状況を図で示しております。海陽中学校と栄喰中学校の距離は約10kmとなっています。5ページをご覧ください。小・中学校の施設の状況ですが、昭和40年代～昭和50年代に建設された施設がほとんどで、老朽化が進んでいます。6ページをご覧ください。学校規模の状況は、学校教育法施行規則等により、小・中学校ともに12学級以上18学級以下が標準とされ、本町では海陽中学校を除き過小規模校となっています。第3章から第5章は、計画の構成と記載方針を示しています。第3章では、適正規模・適正配置に関する基本的な考え方として、基本的な4つの視点、教育的視点、地域連携の視点、まちづくりの視点、学校施設の適正化の視点で基本的な考えを示し、学級数が少ないことの課題、学校運営上の課題が児童生徒に与える影響を踏まえ、適正規模と適正配置の基本方針をまとめます。第4章では、学校再編統合の方針として、令和4年度答申を踏まえ、小学校2校、中学校2校の二校体制に移行し、その後小学校1校、中学校1校体制に移行する事も考慮する方針を示し、再編統合の進め方をまとめます。第5章では、規模適正化・適正配置を進める上で留意すべき事項について10項目についてまとめます。

（皆津委員長）

今、資料を用いて説明いただきましたが、皆さん何か質問ありませんか。私からいいでしょうか。スケジュール案を頂きましたが、町民の意見や考えは非常に大事だと思います。町民への周知、情報発信はどのようにしているのか。

（事務局）

今回の計画策定について、次回委員会、2回目が10月中旬、3回目が令和6年1月に開催した上で、パブリックコメントということで、各庁舎に書類を置いて、ホームページで公開して、計画内容について、町民の方から意見をいただく、第4回委員会はパブリックコメントの意見を踏まえて、最終の計画策定になっていきます。

（皆津委員長）

このことについて質問ありませんか。町民の意見を抽出していくことが大事です。他の自治体ではどうですか。

（事務局）

本日の資料は、議事録をホームページで公開します。今現在もこれまでの会議録とか会議資料を

町のホームページで公開して、意見を頂けるようにしています。各自治体でも同じようなやり方が多いです。

(三浦教育長)

計画案の策定なので、委員の皆さんでまとめていただいて、教育委員会で決定したら、地域へ公開し、説明していかないといけないと考えています。

(皆津委員長)

ホームページで発信していく。年取っていくとホームページを開かなかったり、見ないので中々周知しづらいと思います。紙媒体で行きわたるといいかと思います。

(事務局)

町の広報誌で、パブリックコメントしていますという内容を含めて、町ではこんなことをしているとかの、情報発信を検討しているところです。

(皆津委員長)

委員は別として、できるだけ発信して、周知していかないといけない。このことについて何かご意見ありませんか。

(RD安孫子)

周知について、この計画で方針を定めることになっています。11ページの第5章のところで、住民への説明の方法、住民側にコミュニティをつくるか等案を作成して、委員会で審議して、周知徹底して意見を聞くことになります。

(事務局)

あと、人口推計として、コーホート説明もお願いします。

(RD安孫子)

2ページの人口推計の算出の方法は、国立社会保障人口問題研究所が推計値を国勢調査が終わった後に公開しています。国内の自治体や国の機関は、この社人研の人口推計を利用して政策をつくっています。その推計の方法は、非常に複雑な算式になっているのでその算式は説明ができませんが、女性の16歳から49歳までが出産可能年齢と設定し、毎年の出生数を基に、ある年に0歳が産まれたら次の年は1歳に推移していきますので、このように一つずつ年齢が上がっていくところで、実際値と推計値の差が社会動態等の要因となり、その移動を平均的な数式を出して、それをもとに推計値を出すようになっております。3ページの海陽町の0～5歳、6～11歳、12～14歳の数も同じ方法で計算しています。基礎数値は海陽町の住民基本台帳を基に算出しています。

(皆津委員長)

ご質問等ございませんか。

(事務局)

第5章の10項目も初めての委員の方もいらっしゃいますので、説明をお願いします。

(RD安孫子)

11ページの第5章規模適正化・適正配置を進める上で留意すべき事項について、記載方針は1～10の項目は、文部科学省がマニュアルを公開しています。この中から必要な項目を抜き出しています。特に、(1)関係者の理解・協力・合意形成を図っていくことについてが大事になりますので、阿南市、小松島市、吉野川市のように先に再編統合を進めている自治体の進め方を参考にしていきます。地域コミュニティの核としての配慮については、小学校を地域が利用していることについての配慮をまとめます。学校施設の整備については、町の財政計画を踏まえてまとめます。部活動については、中学校の部活動、地域移行のあり方についてまとめます。放課後子ども教室について、子どもの放課後の居場所づくりが大事になります。こども家庭庁が発足し、こども大綱を示すことになっています。この中から、子どもの居場所づくりは関係があるかもしれません。これらが、マニュアルの中で重要な項目として抽出しています。

(皆津委員長)

今の説明で何かご質問ありませんか。ないようですので、次の議題に移ります。最後になりますので、何か一言お願いします。

(事務局)

新しく委員になられた方へ、これまでの経緯を確認していただけるように、資料と議事録のホームページで公開をします。ご一読いただけるようお願いしていきます。

(皆津委員長)

中学校の部活動の現状と状況について、急ですが中学校から意見ありませんか。

(三浦教育長)

部活動については私から説明します。海陽中学校と穴喰中学校は、団体の競技技に単独出場できない。部活動の種類を同じにして、どちらの学校にいても合同にしても、厳しく、3年生が卒業したら、1・2年生だけでは厳しいです。勝浦郡と那賀町を合せても同じような状況になっています。野球部は、拠点校方式の部活動ということで、どこかの学校を拠点として、拠点方式は、人数が足りないとか関係なく、中学校5校で1チームできました。穴喰中学校を拠点として、海陽中学校、牟岐中学校、日和佐中学校、由岐中学校で拠点校ができています。地域移行について、8月に検討委員会設置して話し合っています。海陽町単独で、地域移行できるかと、指導者が厳しい状況が続きます。生徒数が少ない状況での問題点です。海陽中が1年2年の女子が運動部に入っていないので、女子の運動部は休部している現状です。

(皆津委員長)

教育長の説明について感想ありませんか。こどもの選択幅が狭いです。子どもひとりひとり違う、色々な対策をいてほしいと思います。

(原委員)

小学校の勤務を初めてさしてもらったんですが、中学校に上がってから部活決める子は多いと思います。保育所とか小学校の頃からスポーツ・文化に親しむ機会を今まで以上に設けていくことが、

将来に向けて目当てを持っていく育成に繋がるのではないかと、頑張っている先輩の講演会を開いたり、スポーツとか文化の魅力を今まで以上に伝えることが、幼少期から伝えることが大事になってくると感じています。それを踏まえて、子どもたちが選択するかは別ですが、色々仕掛けていく必要があるのではないかと思います。

(皆津委員長)

小学校は、学級担任の影響が大きいと思います。中学校では、部活の監督とのかかわりは将来にもつながるので、影響力が大きいと思います。部活動の現状を聞きと、好きな部活に入れるとなっているけども教育委員会も仕掛けていければと感じています。

(事務局)

9月補正予算で、運動関係含めた魅力化を小学校中学校対象にして、LCA 国際小学校の地域活性化の先生の紹介で、アテネオリンピックのリレー選手を招いてくことを考えています。スポーツの魅力を発信していく、併せて、文化に関しては、夏休みに開催されていた刀と影絵のコラボで、海陽幼稚園、海陽中学校の生徒さんに先生からの指導を受けて、一緒に作り上げて展示しました。こういう形でどんどん進めていきたいと思っています。

(皆津委員長)

その他ということで、何かございませんか。せっかくの機会ですので、こちらから一言ずつお願いします。

(谷口委員)

先ほどの拠点校方式は、5校が一緒になって、野球部がとあったんですけど、海陽中と宍喰中がしてきたように、合同練習は変わらずでしょうか。

(三浦教育長)

平日午後に集まるのが厳しいのですが、土日には海陽町はバスを出して、美波町や牟岐町はバスが無く、交流もなく、その辺の課題があります。

(谷口委員)

子どもたちの活動としたら、今までとそんなに変わったことはない、方式が変わったみたいだ。

(三浦教育長)

そうですね、例えば、海陽中と宍喰中でできているけど、5校でやると、人数が増えてくるので、試合に出れない子どもが出てくる。この方式は、保護者からすべての意見を聞いて、聞いたうえで、みんながOKでした。

(皆津委員長)

今の意見を聞いていると難しそうです。保護者の意見で影響が強いと、子どもたちと進めていく部活動がやりにくいのかと思います、課題が多いように思えます。

(三浦教育長)

今回は、保護者の一人でも反対があったらやめるとなっていました。反対はなかったです。これがずっと続くかと言えば、一年一年、新しい人が入ってきます。ただ、野球部がない学校でも入れます。

(谷本委員)

私の今日の感想は、周知の徹底で、町のホームページだけでは、ハードルが高い方がいると、広報とか、紙での周知も必要。アンケートをランダムに答えてもらったんだけど、アンケートを知らなかった保護者も結構いたので、若い世代や保護者に周知をして、地域の声をもっと聴けたらと思います。

(岸委員)

僕はどちらかと言えば、統合推進派なので、できるだけ、中学校で複数のクラスを維持できる中学校をつくってもらいたいので、どんどん進めてもらいたいのですが、基本的に、人数が少なくなると維持できないからのまとめることになっている感じなんですけど、まとめるとこんないいことがあるんだと、子どもたちの方向に向いているから、子どもたちの育ちを大切にしているから、まとめて大きな塊にして、いい先生読んで、部活動を充実させていくことを全面に押し出していくのがいいかと思います。藍住町が保育園を1つだけ残して、あと全て私立にしてしまう時に、もめるかと思ったけれども、プラスの情報をだして、合併の話にクレームがつかなかったそうです。しりすぼみではなくて、最大の教育サービスの提供できることを前面に出していく流れにしたらいと思います。

(元木委員)

子ども家庭庁が4月に発足して、子どもを中心に考えていく、そうになっていくと、子どもの意見を聞く機会が重要になってきます。海陽町で高校まで進学した子どもの意見を将来進学する子どもたちが聞いて、意見を言える場があっていいと思います。アンケートで保護者の意見を見て、いろんな意見があると感じていました。阿南市ではアンケートを書いた後どうなったのかという意見があって、阿南市の広報をみると、このようになっていきますとか、こう進んでいますと書かれていて、周知していくのに紙媒体は、まだまだ必要かと思います。

(原委員)

計画案みさせていただいて、出来るところから、何十年先のことは無理だと思うんですけど、今いる子どもたちを見て、本当に小さな一歩ずつでいいと思うので、できることを子どもたちのためになることを提言して、それを現場でも実践していけるようにしていきたいと思います。

(三浦委員)

皆さんがそれぞれに子どものこと考えて、素晴らしい考えを持って、進んでいくことを感じています。10月に2回目の委員会とおっしゃっていたんですけど、選挙が中旬にあって、来れないなと思いました。10月22日ですが、婦人会は期日前から出るようになっていて、20日間位出ないといけません。

(皆津委員長)

来れない人には、事前に資料送って、ご意見とかあれば、口頭でもいいし、メモでもいいし、聞いて

ておけばいいかと思います。

(事務局)

中旬となっていますが、この辺りは事務局でも避けます、だいたい、定例教育委員会に報告する事も多いので、下旬になることが多いかなと意識があります。

(辻委員)

小学校の方からスポーツに馴染んでいく子を育てていきたいんですけども、スポーツ少年団での活動しているんですが、県のスポーツ少年団の会に行ってもチーム数が減っていて、混合とか工夫してやっているんです。けれども、海陽町でもお聞きするんですけど、子どもたちがバレーとか野球したい子がいるが、お母さんが忙しくて、子どもたちの大会にいけないんです。こどもたちに聞くと、お父さんお母さんが忙しいので入れないと聞くので、スポーツ少年団で話し合いして、保護者が携わってもらえるような方法を考えなくてはいけないと思います。宍喰と海南合併をしたりひとつになっているので、子どもたちの意見を聞いて、小学校の頃から参加できると中学校・高校と続いていきます。スポーツ少年団としても子どもたちの未来を考えていきますので、よろしくお願いします。

(皆津委員長)

昔は女子と男子に分かれていたけれども。混合ですか？

(辻委員)

三つに分かれていて、男子、女子、女子の部に人数が足りないなので、男子が入って混合です。

(皆津委員長)

どうやって試合するの。

(辻委員)

混合は混合同士で試合します。

(吉成委員)

教育現場離れて、農業しているので、文章を読む機会が少なくなって、話を聞きながら頭に入ってきたけど、人の話を聞きながら文章読めないようになって、皆さんの意見聞きながら、自分の意見を持たなければいけないと思いました。教育現場を離れてしまうと、自分のこととして考えられないんですね。町のホームページで情報発信しているけど、自分の事としてとらえられないんです。もっといい情報を出して、海陽町の将来をよく思えるような方針ができたらいいなと思います。

(皆津委員長)

それでは、ないようですので事務局に戻します

(事務局)

次回開催予定ですが、10月下旬か11月上旬で調整します。

閉会